

僕専用亜美外伝
ぼくせんようあみ

木星蹂躪Ⅲ

もくせいじゅうりん

—オフパコの洗礼—

おとこじゅく
ななしのいち

成人向



今日は年二回東京ビ○○グサイトで行われる

コミ○○クマーケット通称コ○○ケに遊びにきた!



「なんだよこは!?!」



「まわりはオタクだらけじゃないか!」

「あいつら早くいなくなろー!」





「見ればわかるだろ！」

「コミケだよ！」

「コミケって何だよ!?!」

「私はオタクが嫌いなんだよ!」



「コミケ!？」

「こんな所まできて
何をするんだよ!」

この長身の美少女は木野まこと!

身長は僕よりも高く力も強い！
そして喧嘩は無敗で
そこいらの不良男子が束になっても
敵わない強さを誇っている！





そしてその正体はセーラー戦士の一人で
木星を守護に持つ雷と保護の戦士！

セーラージュピターだ！



TNNcodomo

木野まことは

そんな無敵の美少女

今は僕専用の・・・

肉便器だ！





あれは今年の春に遡る……

僕はクラスメイトで憧れ続けていた

水野亜美のストーカーをし

卑劣な盗撮行為で弱みを握った！

そしてその噂を聞きつけて現れたのが

この木野まことだ！

しかし逆に僕は亜美の恥ずかしい画像を見せ

逆らうなら亜美の画像をばらまくぞと

木野まことを脅した……

親友思いの木野は僕に従うしかなかった！

「なんだよにやにやして！」

「なんでもないよ！」

「それより……」



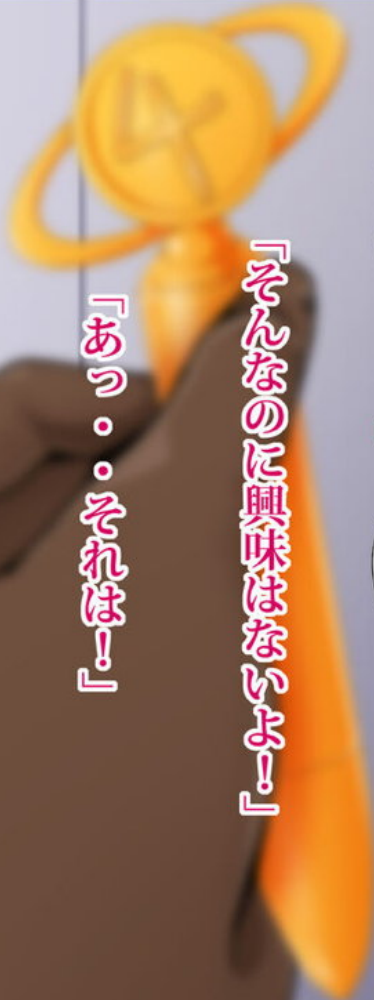
「コミケっていったら
コスプレだろ！」

「コスプレ!?!」

「そんなのに興味はないよ！」

「あっ・・・それは！」

「私の変身ペン！」



A character with long, wavy brown hair styled in a bun with two green ornaments. She has large, expressive green eyes and a slightly determined or questioning expression. She is wearing a white sailor-style top with a grey collar and a white bow at the chest. She is holding a golden staff with a circular top that has a large '4' on it. The background is a simple grey wall with a shadow cast behind her.

「いいから変身してみてよ!」

「どうせ僕には逆らえないだろ!」

「へっ・・・」

「わかってるよ！」



「ジュピターパワーメイクアップ！」



「雷と保護の戦士！」

「セーラージュピター！」

「しびれるくらいに後悔させ……」



「あんだ変身ペンに
何か細工したね!？」

「あーっっっ」

「なんだこれーっ」

「どうだい気だいで
もらえたかな!？」

「ふふふふ」

「いいセーラーズスーツだろ!」





「なんてことを！」

「ほとんど」

「下着じゃないか！」

「ちょっとデータを
いじらせてもらったよ！」

「これくらいじゃないと
ヲタク達の人気は得られないよ！」

「おっとまだそれじゃ
準備が不十分だ！」

「ほら、まじとど……これー！」

「そ……それは！」

「ピンクローター！」



「まことピンクローター好きだろ！」

「ぼ……バカ……何を……!?!」

スス



「これをまことの敏感な乳首に！」

「んー」

「んー」

「こんな場所で!?!」

「さあ反対側も……!」



「そしてこっちにも……!」

「ああ……ばっかっ!

そんなところに……」

「あぁっっ……あぁ……」

アア

アア

「^{なか}膣内になんか……挿入^いれるんじゃ……!」

「ピンクローター装着完了！」

「さあ次はこのメガネをかけて！」

「うんっ！」

「さすがに身バレはまずいからね！」



「おおおお

いいじゃないか!」

「コスプレイヤー
人気間違いなしだよ!」



「これをつける!」

「なんだよそれ!?!」

「インカムだ!」

「これで指示するから
いう通りに行動しろよ!」





「さあごっちだー!」

「なんだここは!?!」

「カメラを持ったオタク達が・・・」

「コスプレ広場だよ!」

「コスプレ広場!?!」

「さあ行ってこい!」

「この格好で・・・?!?!」

「こんな姿で・・・
ヲタク達の中を・・・」

「なあに簡単なことさー!」

「向いつの端まで行って
こっちにもどってくるだけだ!」



「わかったよ……！」

「行けばいいんだらうー！」

「行って帰ってくれば

いいんだろー!？」

「……。」

「でもそれだけで済むとは

限らないけどねー！」



「おおおセーラー戦士!?!」

「しかもなりきりブラセット!」

「!?!」

「すみません一枚いいですか!?!」

「いいちもお願いします!」

「いいちも!」



「セーラージュピターだ！」

「完成度激高ッ！」

「しかも超美人！」

「何でレイヤーさん…?」

「目線ください！」

「こっちもお願いします！」

「こっちも！」

「こっちにも！」

カキ

カキ

カキ

カキ



「な・・・なんなんだ!？」

「あんた達は!？」

カキ

カキ

カキ

カキ

「何勝手に写真撮ってるんだよ!」

カキ



「カメコの皆さんだよ！」

「要望通りポーズをとってあげな！」

「ポーズってなんだよ!?!」

「ほら・・セーラー戦士の
決めポーズとかあるでしょ!」





「わかったよ・・・こうか!?!」

「木星を守護に持つ・・・」

「雷と保護の戦士セーラージュピター!」

「し・しびれるくらい後悔させるよ！」

「.....」



「おおおおおつ！」

クオリティー高ええつ！」

「かつこかわららー！」

「セクシーツ！」

「セーラージュピター
なりきりブラセット！」

「最高つー！」

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ



「えっ!」

「視線くださいー!」

「いゝなななー!」

「いゝなななー!」

「いゝななな願うごめななー!」

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ





カキ

「ごうちお願ひしますー。」

カキ

「ごうさー。」

「ええううー。」

「ごうさー。」

カキ

カキ

「ごうさー。」

カキ

「いっしょー!」

カキ

「こっちお願いしますー!」

カキ

カキ

「いっしょー!」

カキ

「おもしろー!」

「いっしょー!」

カキ

「なんなんだこれ!?!」

カキ

「こっちにも視線をー!」

カキ

「いっしょー!」

カキ

「いっしょー!」



「あああああつ……」

「もう勘弁してくれよおおつ！」

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九





カチカチ

カチカチ

「全く……」

カチカチ

カチカチ

カチカチ

「これじゃ向こうの端まで
行くどころか……」

カチカチ

「一歩も動けないよ!」

カチカチ

カチカチ



「おいみんな！
後ろみてみるよ！」

「〜」

「この娘のパンツ！
Tバックだぜ！」

「ほとんどお尻丸出し！」



「おおおおおつ本当だ！」

「ケツ丸出し！」

「しかもスゲーお尻！」

「ムチムチじゃん！」

「肉感がスゲーツ！」

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ



「ああああっっ！」

「なにお尻ばっかり撮ってるんだよ！」

「そんなところばっか撮るんじゃないよ！」

「このラタクども……」

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ



「どうした!？」

「まごどー!」

「さつきから」

「歩も動いてないぞー!」

「くっ!」

「早く行って帰ってこないと・・・」

「お前の身体に仕込んだ

ピンクローターを作動させるぞ!」

「こんな場所で冗談じゃないよ!」

「あきらめて
彼らの好きなように。」

「写真を撮らせてやるんだな！」

「満足な写真が撮れば。」

「次のレイヤーさん求めて
いなくなるだろっから！」

カチ

カチ

カチ

カチ

カチ

カチ

カチ

カチ



「おおおおおっ!」

「こんなお尻に埋もれたいっ!」

「いいケツ!」

「たまんねえええっ!」

「俺にも撮らせる!」

「順番だっ!」

「前代われ!」

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ



「おおっまこと！
大人気だな！」

「どうだ大勢のオタクさん達に
視姦される気分は!?!」

「くっっ!」

「冗談じゃないよ全く!」



「この娘胸も大きいぞー！」

「ホントかなりの巨乳！」

ムチムチ

ムチムチ

「ボーズのリクエストいいですか!？」

「ちょっと胸を寄せて・・・」

「前かがみでお願いしますー！」



「ほらまこと・・・」

「リクエストに応えてやれよ！」

「く・・・」

「胸を寄せて前かがみだってさ！」



「わ・・・わかったよ！」

「ん・・・なんかー？」

ブブブ

ブブブ



「おおおおっつっでけえええつ！」

「寄せるとデカさが一層引き立つ！」

「うーっー」

「サービス満点！」

「僕君のファンになるよー！」

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

ムキムキ

ムキムキ

カチカチ

カチカチ



「もっと寄せて！」

「～ん。。。んすん。。。」

「胸の谷間を集中的に・・・！」

「おおおおいしねっっっ！」

「この胸で挟んでもらうからねっ！」

カキ

カキカキ

カキカキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ

カキ



「もういい加減にしてくれよっ」

「あああああああああんっっ」

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ





「ようやく収まったのか・・・」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「全くどれだけ
撮りつづけるんだよ!?!」

「でも・・・!」

ハアハア
ハアハア

「これでよろやう・・・」





「今度は別のポーズ
お願いできますか!?!」

「えっ!?!」

「別のポーズ!?!」

「何か得意なポーズありますか!?!」

「セクシーなのをお願いします」

「ほらーまごころー」

「ポーズのリクエストがきたぞー！」

「リクエスト!?」

「何すりゃいいんだよ!?」

「そうだお前アレできたよな！」

「Y字バランス！」



「Y字バランスだって!?!」

「バ・・・バカ言うなよ!」

「この恰好でか!?!」

「あれ!?!まこと!
出来ないの!?!」

「それなら今すぐ

ローターのスイッチを・・・」

「そ・・・それは!」

「わかったよ・・・」

「やればいいんだろ!」



「あーっあーっあーっ」

「早く……」

「くっくっ……」

「見ていてください……」

「Y字バランスをやります……」



「おおおおお……」

「おおっー」

「すげええっっ……」

「おおっ」

「Y字バランス……!?!」

「いや……Y字を通り越して……」

「I字バランスだ!」



「おおおおおおおっー！」

カク

「シャッターチャンス！」

カク

カク

カク

「いっせーっー！」

カク

「すげっー！」

カク

「いりゃすげえっー！」



「おっっー!」

「おっっっっっー!」

「なんだこいつら・・・」

「私の下半身ばっかり!」

「集中的にレンズを向けて!」

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ



「おいよく見てみるよ!」

「この娘の股間……」

カチ

「何か仕込まれてるぞ!」

「ホントだ!」

カチ

「一度オマ○の辺り……」

カチ

「もしかしてローターじゃね!?!」

カチ

カチ

カチ

カチ



「~~~~~!」

カク

「この変態ども・・・」

カク

カク

カク

「好き放題撮りやがって・・・」

カク

「い・・・いつまで続けるんだよ!?!」

カク

カク

「も・・・もう十分だろ!」





「いっしょさー」

カチカチ

カチカチ

「今度こっちはー」

カチカチ

「いっしょさー」

カチカチ

カチカチ

「いっしょさー」

「いっしょさー」

「いっしょさー」

「いっしょさー」

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

カチカチ

「いっしょさー」



「ほら見てみるーまことー!」

「大人気じゃないか!」

「これはもっとみんなの期待に
応えてあげたいとな・・・」

「さて今度は何してもらおうかな・・・」

「ふうふうふうふう!」

「この次だって!?!」

「アンタいい加減にしなよ!」

「まだこれ以上私にこの変態どもの
晒しものになれっていうのか!?!」





「相変わらずまごとは気が強いな！」

「でもららのから……!?!」

「今僕にそんな口をきいて……」

「そんな君には少しお仕置が必要だね！」

「お仕置ききって何する気だい!?!」

「はっ……!?!」

「おどろか……!?!」

「ふんふんっ……そうだ!」

ホキ

ホキ



「~~~~~」

「おおおーっ！」

「一分でいいー！」

「~~~~~」

「~~~~~」

「一分耐えられたら勘弁してやるっ！」



「一分・・・この状態でか!?!」

「そうだ一分だ!」

「一分耐えきるか・・・!」

「それとも伝説のセーラー戦士が・・・!」

「このオタク達の前で醜態を晒すか!」

「これは見ものだな!」

「ぐっぐっ！」

「この私を・・・」

「セーラージュピターをみくびるんじゃないよ！」

「こんな仕打ち・・・！」

「何分でも耐えてみせるよ！」



「おおおおおつ・・・」

「この娘すごいな!」

「もう結構な時間
この態勢をキープしているぞ!」

「体操選手かな!?!」

「凄い身体能力!」

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

「それじゃパンツのアレも!?!」

「パンツからコードが伸びて・・・」

「太ももにコントローラーらしきものが
巻きつけられている!」

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

「そうだ間違いない!」

「この娘の身体にローターが仕込まれているんだ!」

「それじゃこの娘は・・・」

カカ

カカ

「乳首とアソコに仕込まれた
ローターに耐えながら」

「この姿勢を維持してるのか!」

ズズズズズズ

「それにあの振動に耐える顔!」

「こんなシチュエーションまたとないぞー!」

カカ

カカ

カカ

ズズズズズズ

カカ

カカ



「おおおおおおおつ」

「撮るぞー!」「俺もっ!」

カク

カク

カク

「撮るぞー!」

「俺もっ!」

カク
カク
カク
カク
カク
カク

「撮るぞー!」

「僕もっ!」

カク

カク

カク
カク
カク
カク
カク
カク

「撮るぞおおおつ!」

「撮るぞー!」

カク

カク

「シヤッター!きりまへるぞっ!」



「おおおお大人気じゃないか!」

「それによく耐えるな!」

「そろそろ30秒か。。。」

「バカにするんじゃないよ!」

「こ。。。これしきの刺激。。。」

「あと30秒耐えきってみせるよ!」

「言うねっ……」

「それじゃバイブの強度を……」

ズズズズズズ

「少しあげてみようかなー!」

ホフ

ズズズズズズ

ホフ



「!?!」

「な・何を!」

「くっく!」

ズズズズズズズズズズ

「ズズズズズズズズズズ」

ボク

ボク

ズズズズズズズズズズ



「ooooooooooooo」

「ええええ」

「ooooooooooooo」

ooooooooooooo

ooooooooooooo

「君の敏感な乳首のローターの
強度をあげていくよ!」

「……」

「……」

「もちろんごっちもだー！」

ズズズズズズ

ズズズズズズ

「……」

「おっ・・・急にぐらつき始めたぞ!」

「プルプルしてきた!」

プルプルプルプルプル

プルプルプルプルプル

「それに全身に汗が・・・」

「そろそろ限界かな!」

ぐらつきぐらつきぐらつき

ぐらつきぐらつきぐらつき



「この娘の汗尋常じゃないぞ！」

「おい見るよー！」

「この娘のアソコー！」

「汗で濡れてるのかー?！」

「いや・・愛液だ！」

カカ

「愛液が染み出てるんだ！」

ズズズズズズズズ

カカ

カカ

カカ

ズズズズズズズズ

カカ

カカ

カカ

カカ

「おめ・・・おじい〜」

「ぐぐぐぐぐぐ〜」

「あと10秒だ!」

「ぐぐぐぐ〜」

「最後の「押し」」

「ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ〜」

「パイプのブースターをかけてやる!」

ググググググググググ

ググ

ググ

ググググググググググ

ググググググググググ



「おおおおおお・・・」

「アンコのメモリがどんどん抜がっつてらへー!」



「ブラも汗で地肌が透けて……」

カカ

「膝もさつきからガクガクして！」

「感じてるんだこの娘！」

「バイブで！」

「俺らに見られて！」

「アソコがグチヨグチヨになるくらい……」

「感じてやがるんだっつー！」

ズズズズズズ

ズズズズズズ

カカ
ズズズズズズ
カカ

ズズ

ズズ

カカ

カカ

カカ

「堕ちな……まじとー！」

「……………」

「こ……こんな所で……」

「で……でもダメツ！」

「我慢できない……っ！」

「も……もう……ダメツ……」

ツル

ツル

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ツル

ハアハア

ハアハア

ツル

ハアハア

ツル

「おおおおお」

「まさかー?」

「あああああああああああああああつっ!」

「潮噴き!?!」

「昇天!?!」

「こんな場所で!?!」

トニエエエエエ

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九

九十九



「とにかくシャツターチャンスだ！」

「撮れ！」

「撮れ！」

「撮るんだ！」

「撮れ！」

「おおおおおつっ！」

「シャツターを切りまくれええっ！」

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

「だめええええええええええええええええつ。。」

「こんな姿撮らないでええええええええええええええええつ！」





「いまこの娘……いったよな!?!」

「すげえ……」

「あ……ああ……」

「ああ……」

「今のリアルな潮噴きだる!?!」

「撮ったか!?!」

「ああ……撮ったぞ……」



「で…でも…撮りたくない!」

「もっと撮りたい!」

「お…俺も…」

「僕も…!」

「こんなエロいレイヤーさんいないよ!」

「もう一枚お願いできますか!」

「こっちもお願いします!」

「こっちも!」

「こっちも!」

ピン

ピン

ピン

ピン

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

カクカ

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

「まことーよかったな！」

「みんなもっとお前のごと撮りたいってさー！」

「それじゃしかたないよな！」

「もっとサービスしてあげなくちゃ！」



「サービスって・・・なんだよ!?!」

「これ以上何するつもりだよ!?!」

「僕は何もしないさ・・・」

「悪々するのは君の身体に仕込まれた・・・」

「ピンクローター達さ!」

TIV

TIV

TIV

TIV

「や・・・やめてくれ・・・」

「これ以上の屈辱・・・！」

ボク

「そ・・・それに・・・」

「も・・・もう身体がもたないよ！」



「あああああ……」

「ま……また……」

「なんだ……こんどはー?」

「急遽アンコの手を打って……」

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズ

ズズ

ズズ

ボク

ボク

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア



「アッコに手を当てて・・・」

「今度は悶えはじめたぞー!」

アッコ

「あっっ」

「ああ・・・んっ!」

「ああ・・・っっ」

「ああっっ・・・」

ズズズズズズ

「これは・・・オナニーショーだ!」

「セーラー戦士のオナニーショーだ!」

ズズズズズズ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

アッコ

アッコ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「またとないシャッターチャンス！」

「撮るぞー！」

「俺も！」

「ああ・・・やめろっ！」

「撮るぞっ！」

「僕もっ！」

「撮りまくるぞっ！」

ズズズズズズズズ

カチャ

ピン

カチャ

カチャカチャカチャ

ピン

カチャ

カチャ

カチャ

カチャ

「撮るぞー！」

ピン

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア



「おおおおお困えてるー!」

「困えてるっー!」

「くっっっ・」

「こんな美少女が!」

「くっくっくっくっ!」

「僕達・オタクの目の前で!」

「おおっつたまんねえっつ!」



カク

カク

カク

ズズズズズズ

カク

カク

カク

↓↓↓↓↓↓↓↓

ピン

ピン

ピン

ピン

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

「おおおおこつちもすげえぞ!」

「後ろも見てみるよ!」

「ん・・・なにになにどうした!？」

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカク

カクカクカクカクカクカクカクカク

「!?!」

ピン

ピン

ピン

ピン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「お尻もアソコもビショビショだぜ！」

「おおお本当だ！」

「愛液が溢れ出てる！」

「濡れ濡れじゃないか！」

「ス・・・スゲエツツ！」

ピン

ピン

ピン

ピン

ピチ

ピチ

ピチ



「溢れ出た愛液が太ももを伝って・・・」

「床まで流れおちてる・・・」

「そんなに感じてるんだ！」

「この娘感じてるんだ！」

「俺らに見られて感じてるんだ！」



カキ

「おおおおお！」

カキ

カキ

「こっちからのポーズも絶景だぜ！」

「あゝ・・やめろ・・」

「いいねポーズそのままで！」

「一枚撮るよー！」

「ああつ俺も・・ー！」

カキ

「俺もっー！」

カキ

ピキ

ピキ

ピキ

ピキ

ピキ

ピキ





「とっ・撮るなっ・」

「撮らないでくれ！」

「たのむっ・」

「これ以上こんな姿っ・」

カチ

カチ

ピッ

ピッ

カチ

ピッ

カチ

ピッ

ピッ

カチ

カチ

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

「すげえええええつつっ！」

「パンツが食い込んでケツが丸見えた！」

「こんなに濡れた娘……」

「エロ動画でしかみたことないよ！」

「止め処なく愛液がシミ出てくる！」

「……おおおおおおおお……」

カキ

カキ

カキ

ピ

ピ

カキ

ピ

ピ

ズ

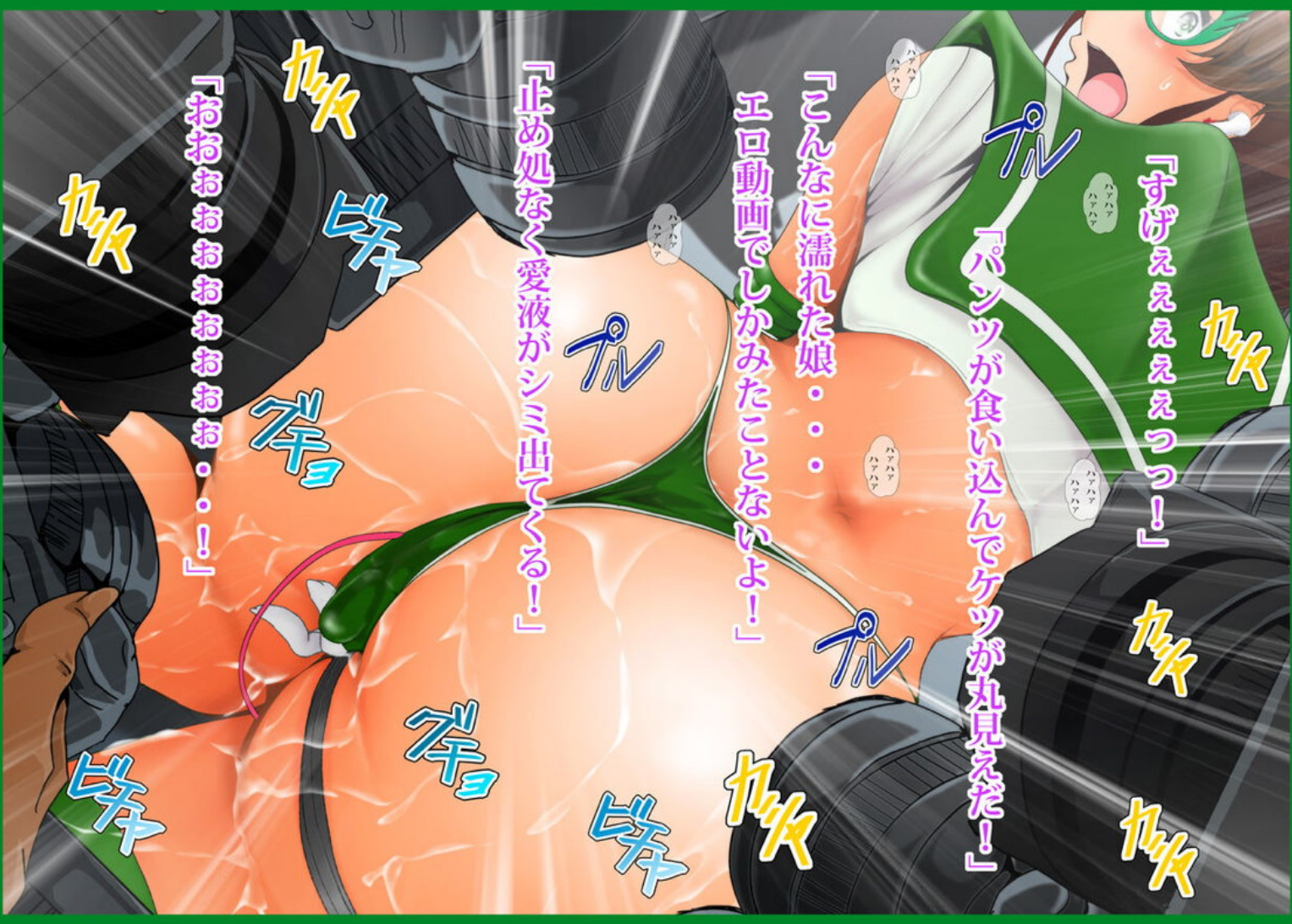
ズ

ピ

カキ

カキ

ピ



「やめろって言うてるのだ……」

「あきらめるんだな！」

「ゾーンに入ったカメコさんを
止めることはできないよ！」

「それよりもっとみんなを
楽しませてあげようじゃないか！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ooooooooo」

「ooooooooooooooooooooo...」

ネネネネネネ

ネネネネネネ

ウウ

ウウ

「おおおっつまたバイブが！」

「ローターが激しく振動し始めたぞ！」

「ああ……ああああああっ！」

ハアハア

ハアハア

ハアハア

「やめろ……たのむ……」

ハアハア

「やめてくれ……！」

ズズズズズズ

「ああああああああっ……」

ホク

ホク

ズズズズズズ

ズ

ズ





「とめてくれ」

「とめてくれ」

「とめてくれ」

「これ以上さらしたら」

ハイハイ

ハイハイ

ハイハイ

ハイハイ

ピン

ピン

ピン

ズン

ズン

ズン

ズンズンズンズンズン

「やあまあいー!」

「ブースとかけてやる!」

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ピン

ピン

ピン

「もう身体が……」

「や……やめる……」

ズズズズズズ

ズ

ズ

ズ

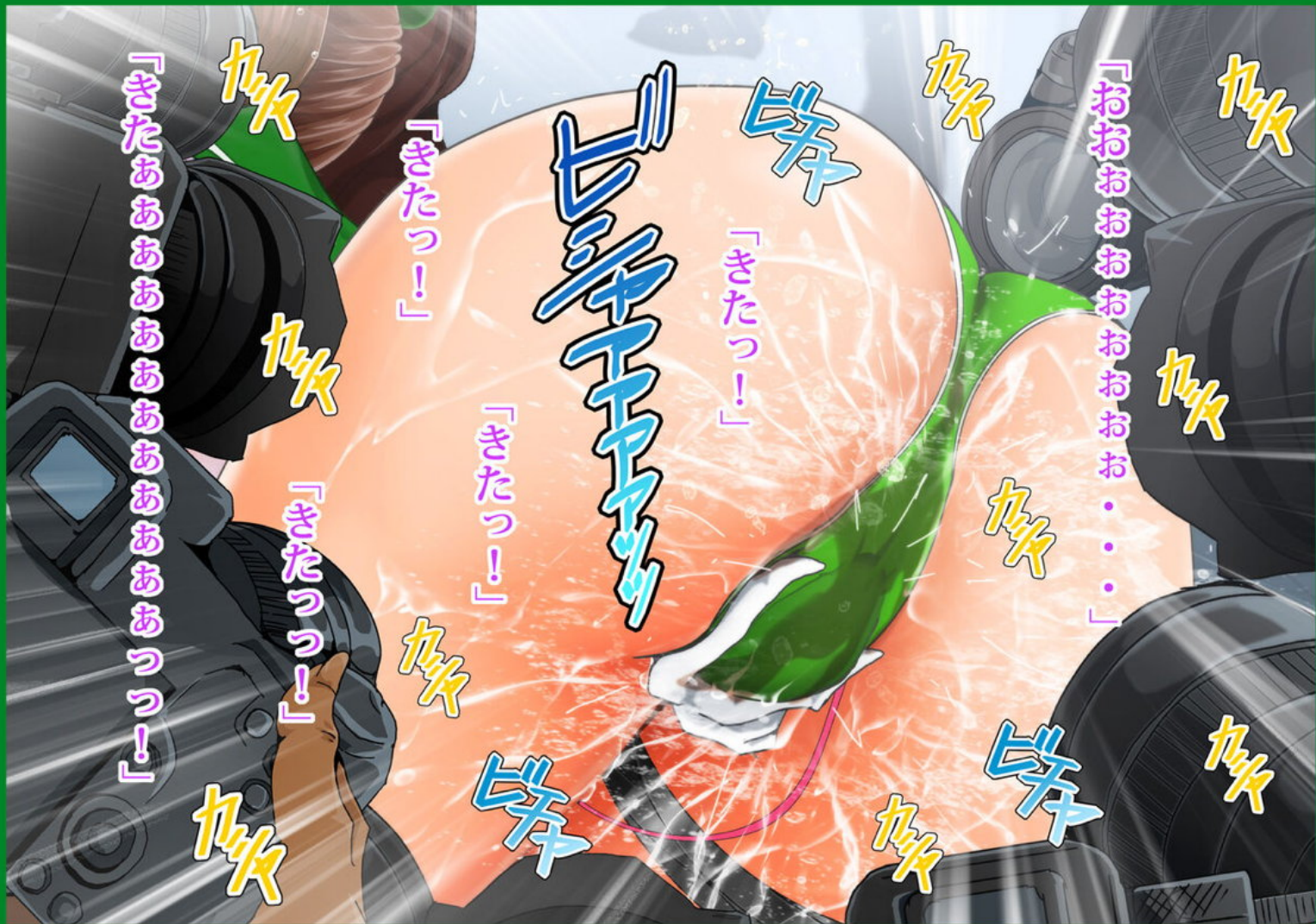
ズ

ズズズズズズ

ホク

ホク





「きたあああああああああああつっ!」

カキ

「きたっ!」

「きたっ!」

「きたっ!」

カキ

「きたっつ!」

カキ

カキ

ビッパ

ビッパ

カキ

「おおおおおおおおおおおお．．．」

カキ

カキ

カキ

ビッパ

カキ

カキ



「おおおおお・・・イっちゃまったんだ！」

「またイっちゃまった！」

「あ・・・あ・・・」

「ああ・・・」

「この娘イっちゃったんだ！」

「僕らの前で・・・」

「潮噴いてイっちゃまったんだ！」

ズ

ズ

ビチャ

ビチャ

ビチャ

ズ



「どうだまごー!」

「大勢の前で昇天するのは……」

「ふふふ……」

「さぞかし快感だっただろう!」

「せっかくだ見せてやれよ!」

「脚を抜げて見せてやれよ!」

ハハハ
ハハハ
ハハハ

ハハハ
ハハハ
ハハハ

ハハハ
ハハハ
ハハハ

ハハハ
ハハハ
ハハハ

ハハハ
ハハハ
ハハハ

ハハハ
ハハハ
ハハハ

ハハハ

ハハハ



「そらだーまじやー!」

「おおっ」

「おお・・・」

「んん・・・」

「おおっ」

「おおっ!」

「そして手を後ろにまわして・・・」

「アソコがよく見えるようにするんだ!」

「おおっ」

「おお・・・」



「手をどけてよ〜見えるよ〜らでするんだー!」

「〜っ〜っ!」

「おおおっ!」

「じらするよ〜くわかるー!」

「濡れてる・・・」

「濡れてるとどうし〜べルじゃないぞー!」

「愛液が滴りおちてらるー!」

ズキョ

ズキョ

ポタッ

ポタッ



「つまり・撮っていらってことかー！」

「おおおおおおお」

「なんてサービス精神旺盛なんだ！」

「撮るぞ！」

「撮るぞ！」

「撮るぞっっ！」

「撮りまくるぞおおおおおっ！」

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

カク

「おめまっどー！」

「場も盛り上がってきた！」

「そろそろファイナルだ！」

「もう一度みんなの前で……」

「イっててもらおうか！」



「落ちな!まごどー!」

「こ。。。これ以上何を。。。!?」

ホキ

ホキ



「ああ。。。ああああああ。。。。」

「おおおお!?!」

「また。。。ローターが!」

ズズズズズズズズ

ゴ

ゴ

ズズズズズズズズ

「ああああああああ。。。!」

「パイプが振動し始めた!?!」

ゴ

「~~~~~」

「ゲ。。。下衆野郎。。。」

ズズズズズズ

ズズズズズズ

ギ

ギ

ギ



「おおおっつー!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

カク

「乳首のローターも・・・」

カク

ハアハア
ハアハア

ズズズズズズズズズズ

カク

「激しく振動し始めたぞ!」

ゴー

ゴー

ゴー

カク

カク



カクカ

「ほら・・・まじでー!」

カクカ

ハアハア
ハアハア

「今度は頑張るじゃないか!」

ハアハア
ハアハア

「ぐぐぐ...」

ハアハア
ハアハア

ズズズズズズズズズズ

カクカ

ハアハア
ハアハア

「このセーラージュピター様を

舐めるんじゃないよ!」

カクカ

ズズズズズズズズズズ

「そう何度も思い通りには・・・!」

カクカ

ズニ
ズニ

ズニ
ズニ

カクカ

ズズズズズズズズズズ

「さすがは伝説のセーラー戦士！」

「それなら敬意を評して・・・」

「すべてのピンクローターの
ブリストを作動させてやる！」

ポチ

ポチ

ポチ





「〜〜〜〜〜」

「〜〜〜〜〜」

ブンブンブンブン

ブンブンブンブン

ブンブンブンブン

ブンブンブンブン

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ブン

ブン

ブン

「みんなきたぞー！」

「きたぞっ！」

「ああああ。。。ダメッ！」

「ダメッ！」

「もうダメエエエエ。。。」

「またきたぞっっっ！」

「セーラー戦士の昇天タイムだああああっ！」

ビチャ
ビチャ
ビチャ



「今回のコミケもよかったな！」

「特にコスプレ広場での
囲み撮影……！」

「セーラー戦士の娘……
最高だったよ！」

「あ……俺見てない……」

「それは残念だな！」

「あと写真見せてやるよ！」

シヨボ

「ささい……」

シヨボ



多目的トイレ

シヨボ

シヨボ



「おお……そうだ……」

シヨボ

「そうだまこと・・・」

ニムホ

ニムホ

ニムホ

ニムホ

「もっと舌を絡ませて・・・」



「ああ……ああ……」

エロエロ

エロエロ

エロエロ

エロエロ

エロエロ

「気持ちいい……」

「もっと激しく頼むよ……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「ああ……そうだ……いいぞ……」

ハアハア
ハアハア

エエ
エエ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

エエ
エエ

ハアハア
ハアハア

エエ
エエ

ハアハア
ハアハア

エエ
エエ

エエ
エエ

ハアハア
ハアハア

「ああ……ららぞ……まじふ……」

ハアハア
ハアハア



「どうだった!?!」

初コミケの感想は!?!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「オタクどもに視姦された

感想は……!?!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「まことが一番人気

あったんじゃないかな!?!」

「さあ続けて・・・」

「今日はこれから

オフ会があるんだけど・・・」

「まことがオタクどもに
視姦されているのを見てたら・・・」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア





「もう我慢できなくて・・・」

「さっきから勃起しっぱなしなんだ！」

「おま・まごどー!」

ハアハア
ハアハア

「んっっ!」

ハアハア
ハアハア

ゴッ

ハアハア
ハアハア

「んっっ!」

ハアハア
ハアハア

ゴッ

ゴッ

「しっかり奉仕してくれよ!」



「どうだ、まことー?」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「んんんー!」

「んんんー!」

ジュポ

ジュポ

ジュポ

「んんんー!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ピンピンに勃起してるだろ!」

「くやしそうな顔でチ○ポに

むしやぶらりつくまこと……!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

グハッ

グハッ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

グハッ

「ああああ……たまんねえよ……!」

ハアハア
ハアハア

「ほらもっと深くだ！」

「んんっっ！」

ハアハア
ハアハア

ゴガッ
ゴガッ

ハアハア
ハアハア

「んーっっ！」

ハアハア
ハアハア

ゴガッ
ゴガッ

ゴガッ
ゴガッ

「ほらもっと喉元深く啜えこむんだ！」



「こうするんだ！まことー！」

ハアハア
ハアハア

「んっっー！」

シメッ
シメッ

「んっっー！」

ハアハア
ハアハア

シメッ
シメッ

ハアハア
ハアハア

「んっっー！」

シメッ
シメッ

ハアハア
ハアハア

「んっっー！」



「おおおおおおおつっ!」

「ほらもっと深く啜えろ!」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ゴゴッ

ゴゴッ

「ングツッ!」

「んんっ」

ゴゴッ

「ングツッ!」

ゴゴッ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「もっともっと深く啜えこめっ!」



「もっと吸えッ！」

「しゃぶれっ！」

「しゃぶれっ！」

ハアハア
ハアハア

「んっっ！」

シメオ

「んっっ！」

ハアハア
ハアハア

シメオ

シメオ

「んっっ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「僕の子○ポをしゃぶりつくせっっ！」

「セーラー戦士のイラマチオだあああつ！」

ゴキョッ

ゴキョッ

「ングツツー！」

「ングツツー！」

「んんっ」

ゴキョッ

「ングツツー！」

ゴキョッ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「うおおおおおおおつっ！」

ハアハア
ハアハア

「気持ちいいぞっっっー」

「気持ちいいっっっー」

「んっっっー」

「んっっっー」

シメオ

シメオ

シメオ

シメオ

「んっっっー」

「まごとのフェラチオー」

ハアハア
ハアハア

「気持ちいいっっっっっっっっっっー」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「もっと舌をチ○ポに絡ませてー！」

ハアハア
ハアハア

「んんっ」

ゴボッ

「ングッ！」

ゴボッ

ゴボッ

「ングッ！」

「ングッ！」

ゴボッ

ハアハア
ハアハア

「もっとチ○ポに吸いついてっー！」

ハアハア
ハアハア

「吸えッ！」

ハアハア
ハアハア

「吸えッ！」

「もっと吸えッッ！」

ジュポ

「んっっ！」

ジュン

「んっっ！」

ジュポ

「んっっ！」

ジュン

「んっっ！」

ジュポ

ハアハア
ハアハア

「吸いつくせえええええええつ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「吸えッッ！」

「うおおおおおっ!」

「もう我慢できなからー!」

ニムホ

ニムホ

ニムホ

ニムホ

ニムホ

ニムホ

「射精すぞー!まこと!」

「このまま射精すぞー!」

ニムホ

「口の中に射精すぞおおおっ!」

「イクツッ！」

「イクツッ！」

「イクツツッ！」

ド
ポ
ン
ド
ポ
ン
ド
ポ
ン

ド
ポ
ン
ド
ポ
ン

ド
ポ
ン
ド
ポ
ン

「イクウウウウウウウウウウウウウウウウウツツ！」







「ああ……イっちゃまった……」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ゴチーッ

ゴチーッ

ゴチーッ

ゴチーッ

ゴチーッ

「で
射精た
……
射精た
……」

ハアハア
ハアハア

ゴハッ

ハアハア
ハアハア

ピクッ

どど

ハアハア
ハアハア

ゴハッ

ピクッ

ハアハア
ハアハア

ゴハッ

どど

ハアハア
ハアハア

「で
射精たよ
……」

ハアハア
ハアハア



「ああ……ごめんな……まごごー！」

「んんっ！」

「我慢できずに口に射精しちゃったよ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ゴハッ

ゴハッ

ポクッ

ポクッ

ゴハッ

どど

どど

「まじと。・わかつてるよな！」

「んっんっ！」

「んっんっ！」

「僕の大事な子種汁だ！」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア



「そうだ・・・全部吸いとったか・・・!?」

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「あ・・・ああっ・・・」

どろっ

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

どろっ

「ああ・・・っ!」

どろっ

ハアハア
ハアハア

「残すなよ!」

ハアハア
ハアハア

どろっ





ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

「ゴクツッ！」

~~~~~

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

「全部飲み込んだか!？」

「あ。。。ああっ。。。」

「ああ。。。っ!」

「おおおおいい娘だ。。。まこと!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



ハアハア  
ハアハア

「ほらまだ僕のチ○ポに・・・」

「くっくっ・・・」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

フェイ

フェイ

フェイ

ハアハア  
ハアハア

「うっうっうっ・・・」

ハアハア  
ハアハア

「大量の精液が垂れている！」



ハアハア  
ハアハア

「そうだ！キレイに舐めとるんだぞ！」

「くっくっく。」

ハアハア  
ハアハア

「も・・・もかってるよー！」

わろ

わろ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「一滴ものこすな！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア





ハアハア  
ハアハア

「さらさらお肌とよ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「〜」

ハアハア  
ハアハア

のの

のの

ハアハア  
ハアハア

のの

ハアハア  
ハアハア

「裏スジのほうもキレイにな！」

ハアハア  
ハアハア



ハアハア  
ハアハア

「そうだ袋に垂れた精液も残すな！」

ハアハア  
ハアハア

「……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「最後の一滴まで舐めとるんだぞ！」





「ああ・・・とっても気持ちよかったよ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「これで気が済んだかい!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「ん!?何言ってるんだ!?!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「コミケのお楽しみはこれからだろ・・・!」





「いったいどこまで  
行く気だよ!」

「ここアキバだろ!?!」

「もうすぐだよ!」

「その先の雑居ビルだ!」





「なんだよここ!?!」

「本当にただの雑居ビルじゃないか!」

「レンタルスタジオさ!」

「さあその部屋に入って!」



「なんだここは！」

「趣味の悪いスタジオだな！」

「こんな場所で

何しようってんだよ!?!」





「世間にはいろんな趣味嗜好を  
もつ人間がいるものさ!」

「特にこのアキバ界限にはね!」

「無駄話はそれくらいに・・・

時間をもつたいない!」

「さあもう一度変身してくれないか!」

「ふー。」

「どうせ無理でも変身させるんだったら。。。」



「ジュピターパワー。。。」

「メイクアップ!」



「木星を守護に持つ  
雷と保護の戦士・・・」

「セーラージュピター!」

「しびれるくらいに後悔させるよ!」

「ムむむむむむー」

「意外に素直に変身したね！」

「ようやく僕には逆らえないことが  
理解できたのかな！」



「弱みがなければ誰が  
アンタの言いなりになんか!」

「…」

「いったいこんな場所で  
何をするつもりなんだい!?!」



「何って。。。!?」

「コミケの後は

オフ会にきまってるだろ!」

「オフ会。。。!?」

「オフ会って何だよ!?!」



「しまごわかるよー!」

「〜っ〜っ〜っ!」

「さあこれを付けてもらおうか!」



「手を上げて頭の上で組むんだ！」

ガチャ

ガチャ

「あああ……何をする！」





「…」

「何だこれー」

「おお…いらねー!」

「囚われのセーラー戦士!」

「今日のオフ会の趣旨は  
ピッタリだ!」



「さあオフ会を  
始めようか!」

「ほら「プレー」」

「まじや…  
これ好きだったよね!」



「そ…それは！」

「どう…電マナー！」

「過去君を幾度となく昇天させた。。」

「強力な大人のオモチャだ！」





「バカにするんじゃないよー!」

「それで私を

いたぶらうってんだらうが。。。」

「そんなオモチャ一つに  
私は屈しないよ!」

「オモチャ一つ!?!」

「勘違いしてもらっては

困るね。。。」

「みんな準備ができたから  
入ってきてっ!」

「ほい!」

「入るよ!」

「!?!」

「なんだい・・・アンタ達!?!」

「おらんのおー!」

「入るよ!」

「ほい!」

「準備できた!?!」



「ええええ。。。」

「ええええ。。。。。」

「待ちくたびれたよー!」

「スゲーかわいいこちゃん!」

「セーラー戦士!?!」

「ええええ。。。」

「まさか本物だったりして!」

「だ。。誰だ。。。。こらっしらはー!」

「ごらっちゅー。。。とは・・・」

「僕の友達にむかって失礼だな！」

「彼らはヒロピン好きのSNSで  
知り合った仲間たちだよ！」

「ヒロピンって・・・何だよ!?!」

「ヒロピンってのはな。。。!」



ハ

「物語のヒロインが

絶体絶命の危機に犯される・・・」

ハ

「!?!」

ハ

「まさか今!」

ハ

「君が置かれている

状況のことをいうんだ!」

ハ

ハ





「まずは手始めに  
電マ地獄の開始だっつー！」

「さあみんな遠慮なく  
いたぶってやってっくれー！」

「っっっー！」

「ま・まっっっーっーっー！」

「おま・おまっっっーっー！」

「いつまで耐えられるかな!?!」

「君・・・まごちゃんってらうんだ!」

「はじめまして!」

僕達、七謎乃君の知り合いで・・・」

「ゴロピン好きの集まりだよ!」

「～ん～」

「～ん～ん～ん～」

「今日はセーラー戦士コスかな!?  
今日のオフ会の衣装にぴったりだよ!」









「セーラー戦士に全身電マ攻めだあぁっ！」

「おんっ！」

「おやおおっ！」

ネネネネネネ

「おんっ！」

ネネネネネネ

「んっねっ！」

「こりやたまらんっ！」

ネネネネネネ

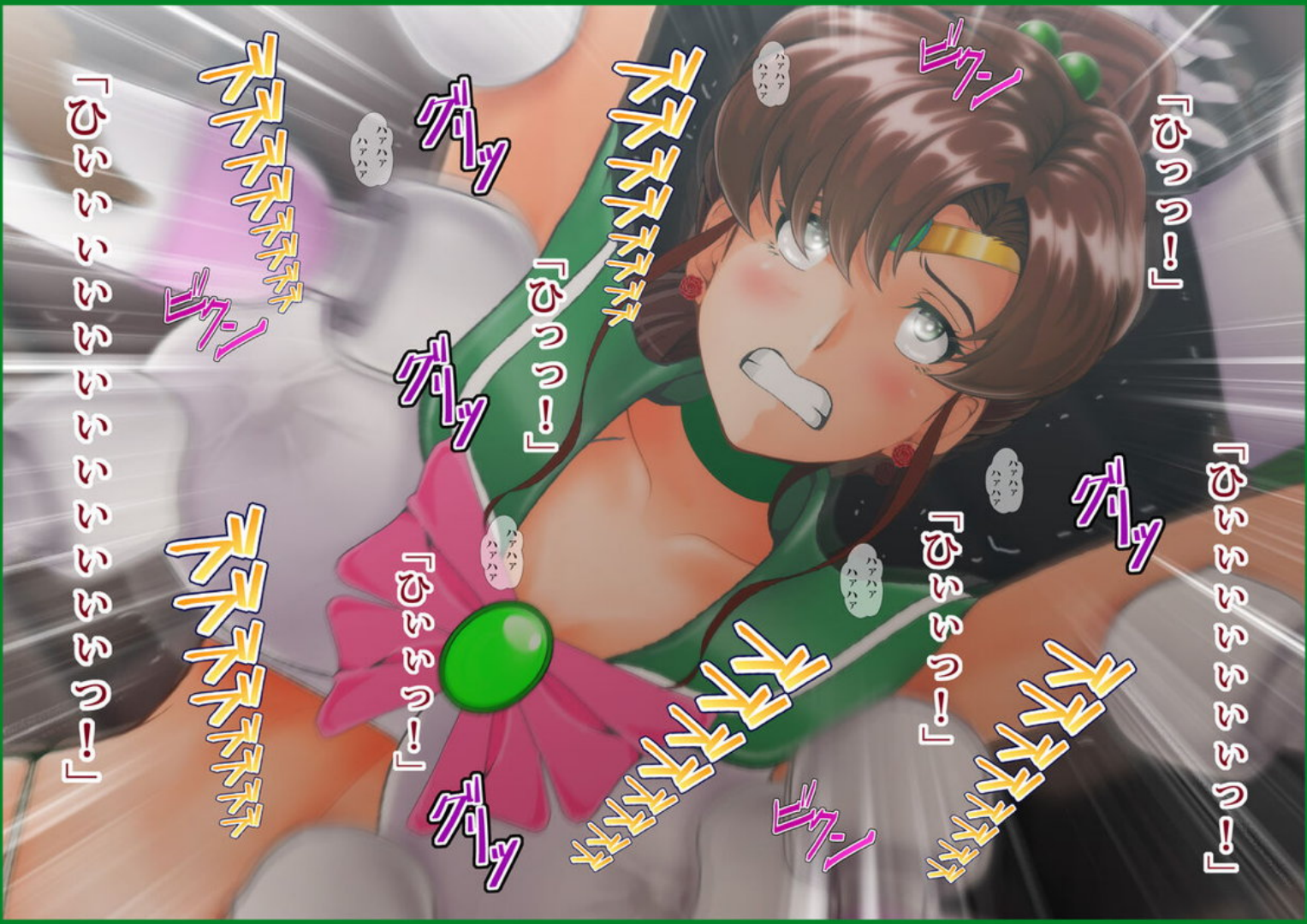
「こういうシチュ！」

ネネネネネネ

「やってみたかったんだよねっ！」







「ドドド」

「ドドドドドドド」

ゴッ

「ドドド」

パッパッパッパッ

パッ

パッパッパッパッ

パッパッパッパッ

「ドドド」

ゴッ

「ドドド」

ゴッ

パッパッパッパッ

パッ

パッパッパッパッ

「ドドドドドドドドド」

「ひいひい啼きながら悶えてやがる!」

「んっー!」

グッ

ズズズズズズ

「まじちゃん

気持ちいいんだね!」

「んっー!」

ズズズズズズ

「僕達の電マで

感じてるんだね!」

グッ

グッ

ズズズズズズ

「でももう限界じゃない!?!」

ズズズズズズ

「降参するなら今のうちだよ!」

「ほらーまこと・・・」

「惨めに昇天させられるより！」

「さっさと降参したほうがいいんじゃないよーの。」

ズズズズズズズズ

「この私をみくびるんじゃないよー！」

ズズズズズズズズ

ズズズズズズズズ

「誰がこんなやつらに  
屈するもんかー！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア







「言うねえ・・・まことー!」

ハアハア  
ハアハア

「さすが内部系惑星最強の戦士!」

「セーラージュピター!」

ハアハア  
ハアハア

くっくっ

ハアハア  
ハアハア

くっくっくっくっ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「僕達みたいなモブキャラには  
屈しないというごときがー!」

ハアハア  
ハアハア

ムキ

「でもそういうこなくつちゃー!」

「弱いヒロインをいたぶるのは  
僕らも趣味じゃない!」

「君のような屈強な戦士を  
屈服させてこそ達成感が得られるんだ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

クハ

ハア



「なあに時間はたっぷりあるー！」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~と蹂躪してさあかせるー！」

フュ

「~~~~」





「なんだ……まこと！」

「あれだけ強がっておきながら……」

「あ・ああ……」

「ああ……」

「乳首つねっただけで  
悲鳴あげてやがる！」

「まったく先が思いやられるね！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ピン

ズン

ピン

ズン

ズン



「そういえばまことは

乳首も弱点だったよな！」

「それならみんなにその弱点を  
見てもらおうよ！」

「な・・・何言ってるんだよ!?!」

「何する気だよ!?!」

「みんな、まことのオツパイ見たいよな！」

グイツ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「まごちゃんの  
オツパイ!?!」

「この巨乳を

拝めるの!?!」

「僕も見たい!」

ハアハア  
ハアハア

「〜っ〜っ〜っ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「おおおお・・・!!」

「まごちゃんの生乳!?!」

「見たい!」

ズイツ

「俺も見たい!」

「僕もっっ!」

ハアハア  
ハアハア

「ほらまごっど!」

「みんなお前のオツパイみたいってさ!」



「んんんんんん」

「おおおおおデケエツツ！」

「み・・・見るな！」

「スゲー巨乳！」

「こんな可愛い顔して・・・  
こんなオツパイして・・・」

「女の子のオツパイ初めて見た！」

パン

パン

パン



「どうだいみんな！  
この巨乳！」

「今日はこのオツパイを  
好きなだけ弄んでもいいんだよ！」

クシュ

「こんな風にね！」

クシュ

「ゆらゆらー」



「おおおおなんて敏感なんだ！」

ハアハア  
ハアハア

「乳首を軽く摘まんだだけで！」

ビクーン

ハアハア  
ハアハア

「このセーラー戦士は  
乳首が弱点か!?!」

「あ。。。ああ。。。」

ハアハア  
ハアハア

「このオツパイを好き放題  
弄んでもいいって!?!」

ハアハア  
ハアハア

「今日はツイてるぜ!」

ハアハア  
ハアハア

「こんな娘がオフ会に

参加してくれるとは!」

ハアハア  
ハアハア

ビクーン

「さあみんな調教再開だ！」

「く。。。」

「やめろ。。。」

「その電マで直接この生乳を  
弄んでやってくれ！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア





「ふんふんおんやん〜」

「ここからがヒロピンオフ会の  
真骨頂だっっ〜!」

「そのわがままボディ〜!」

「豊富なオツパイ〜!」

ズズズズズズズズ

ズズズズズズズズ

「たっぷりらたぶらっしてあげるよ〜!」



「おんー!」

「おんおんー!」

「あ・・・あめんー!」

「んんんん・・・」

「んんんんんんんんんんんんんんんん・・・」

ズズズズズズズズ

ズズズズズズズズ

ズズズズズズズズ

ズズズズズズズズ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

「まじちゃんいっほー。」

「これが気持ちさらさらっしょー。」

「ああ・・・やめろっ」

「ち・・・乳首は・・・」

「乳首が弱点だってー？」

「集中的に攻めてあげるー！」

「僕が気持ちよくしてあげるよー。」

ズズズズズズ

グワッ

ズズズズズズ

グワッ

ズズズズズズ

グワッ

グワッ

ズズズズズズ

グワッ

グワッ

ハハハ  
ハハハ  
ハハハ

ハハハ  
ハハハ  
ハハハ

ハハハ  
ハハハ  
ハハハ



「やめろっつらおねるんや...」

もっつら腹めたくなるよおねー」

「おるんー」

「おるおるー」

「おるおるー」

「おるんー」

「気持ちるんー」

「ポントは

気持ちいいんでしょー」

「ポントは

感じてるんでしょー」

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

ズズズズズズズズズズ

グギャ

グギャ

グギャ

グギャ

グギャ

ズズズズズズズズズズ







「あらあらー!」

「無理するな!」

「さらさらは本気だ!」

ズズズズズズズズ

ズズズズズズズズ

「そろそろギブアップ  
したほうがいいぞ!」

ズズズズズズズズ

「さらさらの前で

醜態を晒す前にな!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ギャ  
ギャ

ギャ  
ギャ

ズ  
ズ

ズ  
ズ

ギャ  
ギャ

ズズズズズズズズ

ズ  
ズ

ギャ  
ギャ



「何度も言わせるんじゃないよ!」

「私は雷と保護の戦士!  
セーラージュピターだ!」

「アンタ達のちんけな凌辱には  
絶対屈したりしたいよ!」

「だってさ・・・みんな・・・」

「くっくっ！」

「このセーラージュピター様は  
僕達のちんけな凌辱には負けないらしい！」

「それじゃ・・・徹底的に  
やってやるうー！」

「こいつが泣いて許しを乞うまで  
蹂躪してやるうー！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「さあみんな遠慮はいらない！」

「このセーラー戦士に  
凌辱の限りをっ！」

「おおおおおっつ」

「やってやるー！」

「このセーラー戦士が果てるまで  
凌辱しつくしてやるー！」

「足腰たたなくなるまで  
辱めてやるー！」

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「オラッー」

「オラッー」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

「くっー」

「くっー」

「オラッー」

「オラァァァッッー」

「オラッッー」  
ネネネネネネ

「~~~~~」





「~~~~~」

ゴッゴッ

ハアハア  
ハアハア

「~~~~~」

ゴッゴッ

ハアハア  
ハアハア

ゴッ  
「~~~~~」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「~~~~~」

ゴッゴッ

ズズズズズズ

ゴッ

ハアハア  
ハアハア

ゴッゴッ

ズズズズズズ

ゴッ

「~~~~~」

「身体が・・・感覚が・・・制御できない！」

「こんなオモチヤで・・・」

「くつつ・・・思考が奪われる！」

「だ・・・だめっっ・・・」

「何も考えられない・・・！」







「ダメエエエエエエエエエエエエエエエエエツ！」

ジュジュジュジュジュジュジュ

「イグウウウウウウウウウウウウウウウウウウツ。」







「あゝゝゝあゝゝゝ」

「あゝゝゝ」

「あゝゝゝ」  
「あゝゝゝ」

「あゝゝゝ」

「あゝゝゝ」

ビクン

ビクン

ビクン

ビクン

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「あ……」

「あひっ……」

ピクン

ピクン

「あ……あ……」

「あひっ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ピクン

ピクン

ピクン

「なんだ……まごどー!」

「はひっっー!」

ハアハア  
ハアハア

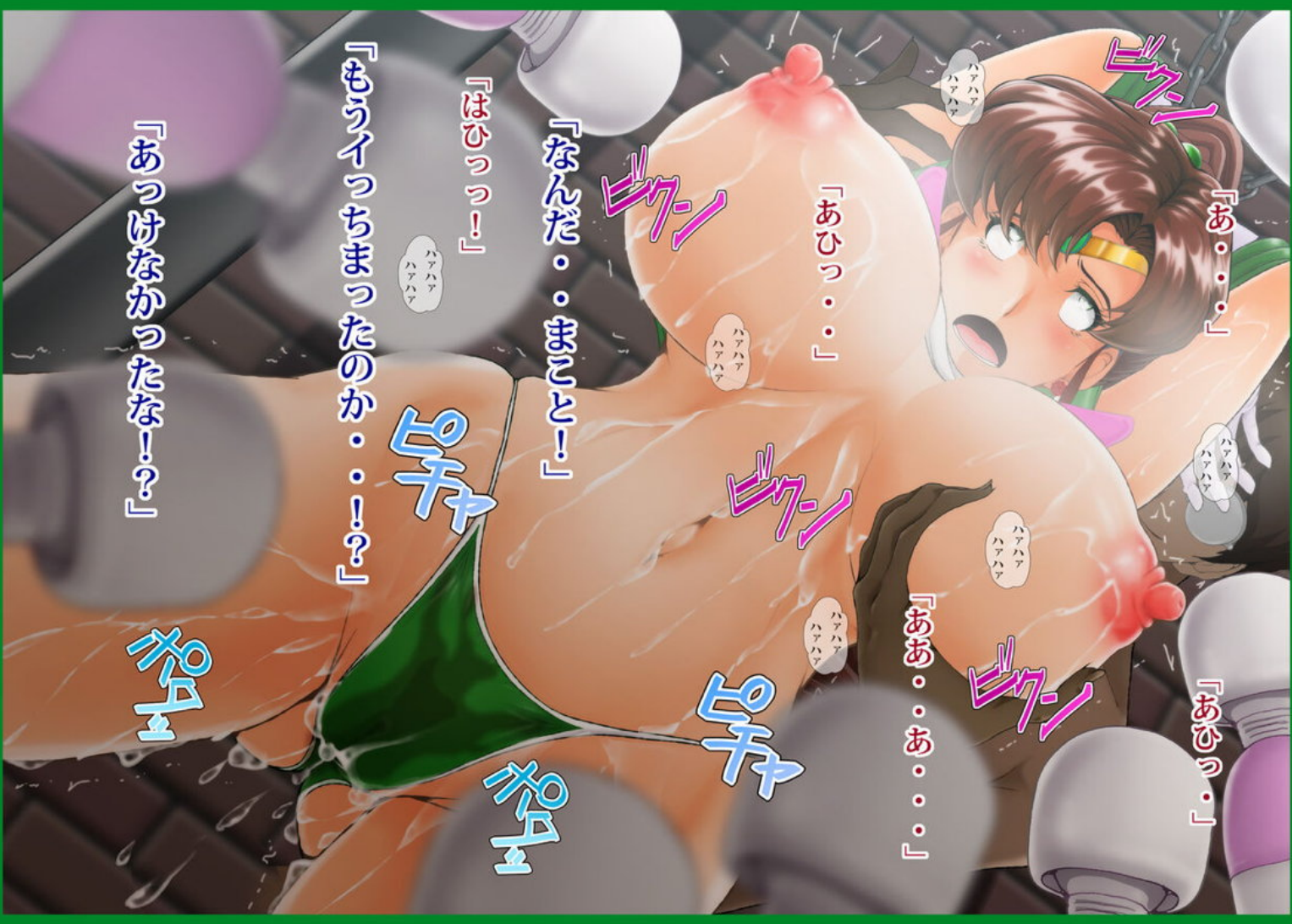
ピクン

ピクン

「もういつちまったのか……!?!」

「あっけなかったな!?!」

ピクン



「ああ……あ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ビクン

ビクン

「セーラー戦士が……」

「電マに屈服!」

ハアハア  
ハアハア

「あ……」

「あひっ……」

「あひっ……」

ビクン

ハアハア  
ハアハア

ビクン

ハアハア  
ハアハア

「まいちゃん……」

ビクン

「いつちゃったんだね!?!」

「こんなにお漏らしまでして……」

ビクン

「はひっっ……」

「こんなにビショビショに!」

ハアハア  
ハアハア

ビクン

ビクン

「電マ気持ちよかったの!?!」

「哀れだな・・・まことー!」

「くぅ・・・」

「セーラー戦士がこんなオモチャに  
三分ともたずに・・・」

「お漏らしまでして

昇天してしまうとはね・・・」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ゴクン

ゴクン

ゴクン

ゴクン

「ああ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「ああ……まごちゃん……」

こんなにお漏らししちゃって……」

ハアハア  
ハアハア

「僕達の調教が  
気持ちよかったんだね！」

「セーラー戦士のパンツが  
オツユでびちゃびちゃだ！」

「ああ……」

「な……何を……何を……?」

「ぐふふ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア





ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「ぬるぬるー」

「んふんふん…」

「ああ…」

「まこちゃんのお漏らし…」

「まこちゃんの愛液…」

ハアハア  
ハアハア

「まこちゃんのおツユー！」

「舐めていいかなー？」

ぽちゃ

「むちゅむちゅおのズボン」

「しゃぶっつてもいいかなー？」

おっぱい

おっぱい

ぽちゃ

「ああ……何をやる!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

「や……やめろ……」

ハアハア  
ハアハア

「やめてくれっ!」

「お兄さんが

しゃぶらひくして……」

ハアハア  
ハアハア

「まごちゃんのアソコ

キレイにしてあげるよ!」

ギン

「あ……ああ……ああああああ……」

ギン











「ほんとだな・・・」

ハアハア  
ハアハア

「ひゅっ!」

「ホントはクンニされて  
感じてるんだろ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「ひゅゅゅゅゅー!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「アソコ舐められて  
感じてるんだろ!」

ハアハア  
ハアハア

「その証拠に乳首がこんなに  
ピンピンに勃ってるじゃないか!」

ピン  
ピン





「いやあああああああつっっ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ニム  
ニム

ゴッ  
ゴッ

ゴッ  
ゴッ

「まごちゃんのおツユ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「まごちゃんのおツユ!」

ニム  
ニム

ゴッ  
ゴッ

「吸い尽くしてあげるよおおおおおっっ!」



「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「ああ……ああ……」

「僕達もいいかな！」

「あ……ああ……っ！」

「僕にも舐めさせてー！」

「俺にもっ……っ！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ピン

ピン

ピン

ピン

ピン

ピン

「僕は・・・左の乳首を・・・」

ズ

「ひゅっ・・・」

ズ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ム

「何をする！」

ズ

ズ

ハアハア  
ハアハア

ズ

ハアハア  
ハアハア

ズ

「それじゃ俺は右のオツパイだ！」

ハアハア  
ハアハア

ズ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ズ

「おおおお・・・!!  
大人気だなまこと!」

「ああっつ・・・」

「ああああっ・・・」

「存分に舐めてもらえ!」

「身体中舐めまわしてもらえっ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ぽろ

ぽろ

ぽろ

「今度はワキを

なめちやおうかな!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「あああああつっっっ」

「よっっよせっ」

「どこ舐めるんだ!」

「まごちゃんのワキっ」

「っっっっっっっっっっっっ」

ん  
ろ

ん  
ろ

ん

ん

ん

ん

ん







ハアハア  
ハアハア

「おっおっ」

おっ

おっ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「おっおっおっ」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「俺はその可愛いおっぱいを」

「舐めさせてもらおうかな」

ハアハア  
ハアハア

おっ

おっ

おっ

おっ





ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

「あ……ああ……」

「あ……」

「たのむ……」

「もう……やめてくれ……」

ハアハア  
ハアハア

ビクン

「今度はその可愛い顔を  
舐めてもいいかな!?!」

ハアハア  
ハアハア

「美少女のキレイな顔を

舐め回すのが僕の夢だったんだ!」

「ひゅっ」

ハアハア  
ハアハア

ビクン

ろろ

ろろ

ハアハア  
ハアハア

「ぶるるるるるー」

ハアハア  
ハアハア

「ああ・・あああああっ!」

ハアハア  
ハアハア

「まごちゃんのはっぺ柔らかい〜!」

ハアハア  
ハアハア

ビクン

「あああああ……」

「まじちゃんー!」

「まじちゃんー!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ムッ  
ムッ

ムッ  
ムッ

ロロ  
ロロ

ロロ  
ロロ

ロロ  
ロロ

「俺はこっちから舐めてやる!」

「セーラー戦士の顔を舐めてやる!」



「いやあああああああああ。」

「か。顔なんか舐めるな！」

「くっくっくっくっく。」

「気持ち悪いんだよアンタ達！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「気持ち悪いとは心外だねえっ!」

「君のような美少女が

そんな言葉使いよくないよ!」

「んんっ!」

トキッ

「!?!」

「んーっ」

「おしおきだ!」

「んーっ!」

「そんな悪い口は塞いでしまおう!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「まこちゃんと唾液交換だっっ！」

「いっぱい飲んでー！」

「んーっ」

「僕の唾液をいっぱい飲んでー！」

「んっっー！」

「んーっ」

ザン

ゴクッ

ゴクッ

「まこちゃんの唾液も

吸い取ってあげる！」

「んーっっー！」

「んーっ」

「吸い尽くしてあげるよっっっ！」



「ふはあああつ！」

「ああああああ美味いっ！」

「まごちゃん唾液美味いぞおつ！」

「あああああつ！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「いやあああああ。。。。」

「いいねえつ！」

「それじゃ今度は。。。。」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



ハアハア  
ハアハア

「まごちゃん唾液・・・」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ズグズグ

「美味かった・・・！」

「んーっ」

ハアハア  
ハアハア

「んーっっ！」

ハアハア  
ハアハア

ズグズグ

「んんっ！」

「俺の番だ！」

「俺と唾液交換しようぜ・・・」

「セーラー戦士ちゃん！」



「あああああああああああ……」

「もういやあああああああああ……!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「なんだ降参するの!?」

「ひいひいひい…」

「もう…勘弁してくれ!」

「でもあれだけ強がったんだ!」

「こんなもんで終わると思ったら  
大間違いだぞ…」

「ほらやってやれっ!」



ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

「んんんんん」

「んんんんんんんんん」

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

「あああああああ……」

ハアハア  
ハアハア  
ハアハア

「いやああああ……」

「何をすするっっ！」

「んんんんん」

ズン

「うっ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「み……見るな……」

ハアハア  
ハアハア

「胸や腰つきはわがままなのに！」

「まこちゃん意外とこっちは

ハアハア  
ハアハア

成長していないんだね！」

ハアハア  
ハアハア

「七誌乃君と同一年だから……

まあこんなもんか……！」

ハアハア  
ハアハア

ピ

「おおおお……」

ハアハア  
ハアハア

「まこちゃんのワレメ！」

ピ

ハアハア  
ハアハア

ピ

「や・・・やめる!」

「汚い手で・・・」

「さわるんじゃない!」

「でも奥の方は・・・」

「おおグチヨグチヨだ!」

「愛液が溢れ出て!」

「指がワレメに吸い込まれていく!」

ズ

ズ

ズ

ぬちゅ

ぬちゅ

ズ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「うううっ!」

「見るこの愛液!」

「天然のラブジュースだ!」

「セーラー戦士のマ○汁だっっ!」

「おおおお」

「おお・・・すげええ!」

ブル

ブル

ブル

ブル

じろろ

ブル

「くっ!」

ブル

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「どうだい……」

「まごとに一度だけ  
チャンスをやろう!」

「……」

「これからみんなでお前を

愛撫しまくる……」

「それに耐えきったら

今回は許してやろう!」

「さあみんな始めてくれっっ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ズ  
ズ

ズ  
ズ

ズ  
ズ

「な・・・なに勝手なこと・・・」

ハアハア  
ハアハア

「や・・・やめろ・・・」

ズ

「こ・・・これ以上は・・・」

ハアハア  
ハアハア

「ぬるるるるー」

ハアハア  
ハアハア

ズ

「おおおお・・・」

「まこちゃんワレメー」

ハアハア  
ハアハア

ズ

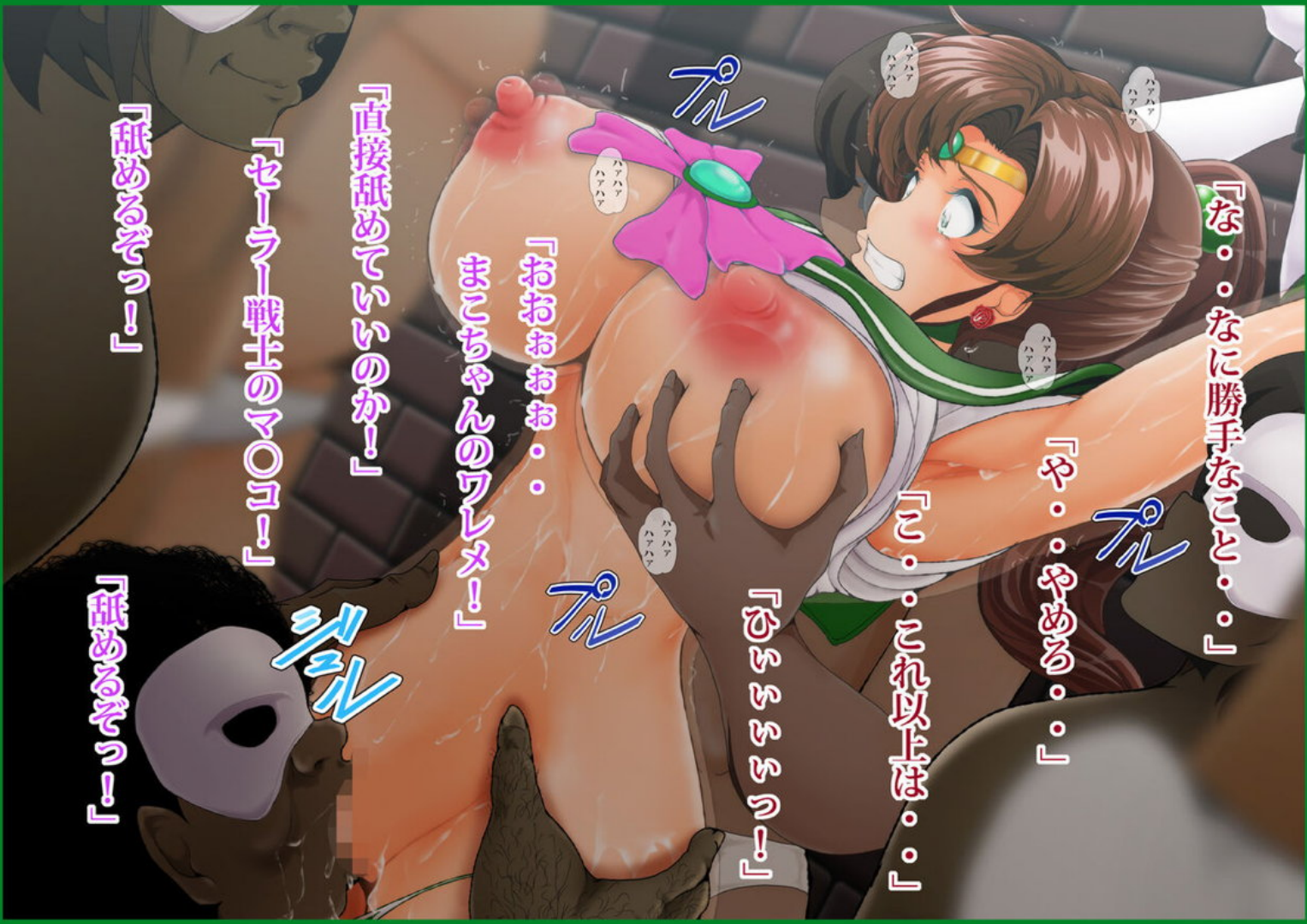
「直接舐めていいのかー」

「セーラー戦士のマ○トー」

ズ

「舐めろくー」

「舐めろくー」





「みんな手を休めるな！」

「ぽん」

「ぽんぽん」

「ぽんぽんぽん」

「全員総出でまことの身体を舐め回せええっ！」







「~~~~~」

「だめだ！」

「落ちな・・・まことー！」

「~~~~~」

ピロ

ピロ

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ピロ

ピロ

ピロ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア





「あああああイクツッ！」

「イクツッ！」

「イクツッ！」

「イクツッ！」

「イクツツツッ！」

「またイグうウウウウウウウウウウウウ。」







ハアハア  
ハアハア

「あ……あ……」

ハアハア  
ハアハア

ズ

「あ……あ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「あ……」

ハアハア  
ハアハア

ズ

ズ

ズ

ビヤ

「いつちまったか・・・」

「あひっ・・・」

「あ・・・あ・・・」

「あひ・・・」

「哀れだな・・・まことー!」

「あひ・・・」

「あひっ・・・」

「あひっ・・・」

アヒ

アヒ

アヒ

アヒ

アヒアヒ

アヒアヒ

アヒアヒ

アヒアヒ

アヒアヒ

アヒアヒ

アヒアヒ



「みんなよく見てやれ！」

「あれが僕等に意固地にたてついた・・・」

「あひっ・・・」

「あ・・・あ・・・」

「あひっ・・・」

「はひっ・・・」

「あひっっ・・・」

「内部系最強のセーラー戦士！」

「セーラージュピターのなれのはてだ！」



ハアハア  
ハアハア

「おおおお・・・」

「あのまじちゃんが・・・」

「僕等に身体舐めまわられて・・・」

「潮噴きまくって昇天!」

「自冒むいて失神・・・」

「また昇天しちゃったよ!」

「おら・・・おら・・・」

「さっしおのびてやがる!」

ズ

ズ

ズ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ズ

ズ

「残念だったな・・・まこと!」

「勝負は君の負けだ!」

「んっ・・・」

「あんな大勢で・・・」

「卑怯だよっつ!」

「この下衆野郎が!」

「もう気がすんだかい!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「何いっんの・・・まじやー!」

「お楽しみはこれからだる!」

「わかるだる君のお尻にあっている・・・  
僕のピンピンに勃起した男性器が・・・」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「君がみんなに辱められる姿を  
見ているともうこんなになんて……」

「さつきから

勃起しっぱなしなんだ！

ズン

「……」

「お……おい……まさか……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「セーラー戦士の…」

「後悔レのプだ！」

「ああ…っ」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ズ  
ズ

ズ  
ズ

ズ  
ズ



「さあ挿入しろぞ！」

ズン

アア

アア

アア

「や……やめろよ……」

「こんな大勢の前で！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア





「みんなお前が犯されるのを期待しているぞー!」

「ぎゅっっっー!」

「一気に子宮まで

捻じ込んでやる!」

「おらあああああああつー!」

「らやっー!」

「らやっー!」

グ  
ツク

「らやっー!」









ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「挿入<sup>は</sup>いったぞ。。。まこと!」

IN

IN

IN

「七誌乃君のチ○ポが・・・」

ズイ

ズイ

ズイ

「まごちゃんのオマ○コに・・・」

「セーラー戦士のオマ○コに！」

「ズツポリ串刺しだ！」

「あ・・・ああ・・・」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「ふ・・・ふふ・・・ふふ・・・」

ズイ

ズイ



「さくまひゃー!」

「セックス開始だっ!」

ズツ

「あああああ……っ!」

ズツ

「さ……さ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア





「たまらねえシチュユだ！」

「セーラー戦士が  
なすすべもなく！」

ズツ

ズツ

「手足の自由を奪われた

セーラージュピターが・・・」

「無抵抗に犯されているー！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「こりゃいい仕上がりだ！」

「まことのマ○力で

締め上げられるー！」

ズ  
ツ  
ッ

「ひらひらっ！」

ズ  
ツ  
ッ

「突き入れる度に

凄い力でしめあげてくるっっ！」

ハアハア  
ハアハア

「まことのオマ○コは

最高の肉壺だああああああつっ！」

ハアハア  
ハアハア

「むふふふふっっ！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「まことのオマ○コは  
相変わらず最高だな！」

「ほら脚をあげる！」

「あ……ああ……っ」

「な……何をする！」

ハアハア  
ハアハア

TV

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

TV

グイッ

「ほらいらせろよ」  
まことのアソコが丸見えだ!」

「!?!」

「くっっっ!」

「愛液にまみれた  
いやらしいアソコを見てもらえ!」

「僕のチ○ポに犯されている  
まことのオマ○コ見てもらえ!」

プル

プル

ズメ

ズメ

プル





「おおおおおスゲエエツッ！」

「まこちゃんのおマ○コに  
七誌乃君のチ○ポが根元まで……！」

「や……やめろー。」

「み……見るな！」

「ズブズブ挿入<sup>ほ</sup>いってる！」

ツル

ツル

ツル

ズッ

ズッ

ズッ

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア

ハアハア



ピル

「もっと下から

突きあげてやる!」

「んんん」

「ああっっ」

ピル

ピル

「やめる・・・」

ピル

「犯され続けるところを

みんなにもっとみてもらえろ!」



「ひっー!」

「出し入れされてるところ

見てもらえツツ!」

「おんおんー!」

「オラッ!」

「ひっっっ!」

「セーラー戦士の犯されてる  
オマ○コ見てもらえツツ!」

「オラッ!」

「おんおんおんおんー!」

「オラッ!」



「み……見るなって……」

「おおおよく見えるー!」

「見るな!」

「突き入れられるたびに  
アソコから愛液が噴き出してくる!」

「何度もチ○ポが  
まこちゃんのオマ○コに!」

「よく見えるぞおおおっ!」

「見るんじやならっ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「よかったな、まことー!」

「セーラー戦士の公開レオプ!」

「ぐんぐんー!」

「ぐんぐんぐんぐんー!」

「みんなご満悦のようだ!」

「それじゃもっと期待に  
応えてやらないとな!」

プル

プル

プル

プル

プル

プル

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「もっと激しく犯してやるっっ！」

「オラッ！」

「あっっっ！」

「ああっっ・っ」

「もっと惨めに犯してやるっっ！」

「オラッ！」

「オラッ！」

「オラッッ！」

「あああああ・っ」

「オラアアアアアアアアアアアッ・っ」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ビャ

ビャ

バクバク

バクバク

ピル

ピル

ピル



「ああああ……」

「もうやめてくれっ……!」

「もう許してくれっ……!」

「たのむ……っ!」

「たのむよおおおっ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

パン  
パン

パン  
パン





「ひっ！」

「泣いて懇願するヒロインを  
無慈悲にも犯し続けるっっ！」

ズン

ズン

ズン

ズン

「わぁぁぁー！」

「これぞヒロピンの醍醐味！」

「あああああ……」

「んんんんー！」

もうたまらんー！」

ズン

「ぼ……僕も……」

「お……俺もだー！」

ズン  
ズン  
ズン

ズン  
ズン  
ズン



「おおおおおおおおおっ……」

ハアハア  
ハアハア

シコ

「僕さっきから

勃起しっぱなしだったんだ！」

シコ

シコ

シコ

「俺も……」

ハアハア  
ハアハア

シコ

「僕もだよ！」

ハアハア  
ハアハア

「僕なんかガマン汁で

パンツ濡らしちゃたよー！」

シコ

ハアハア  
ハアハア

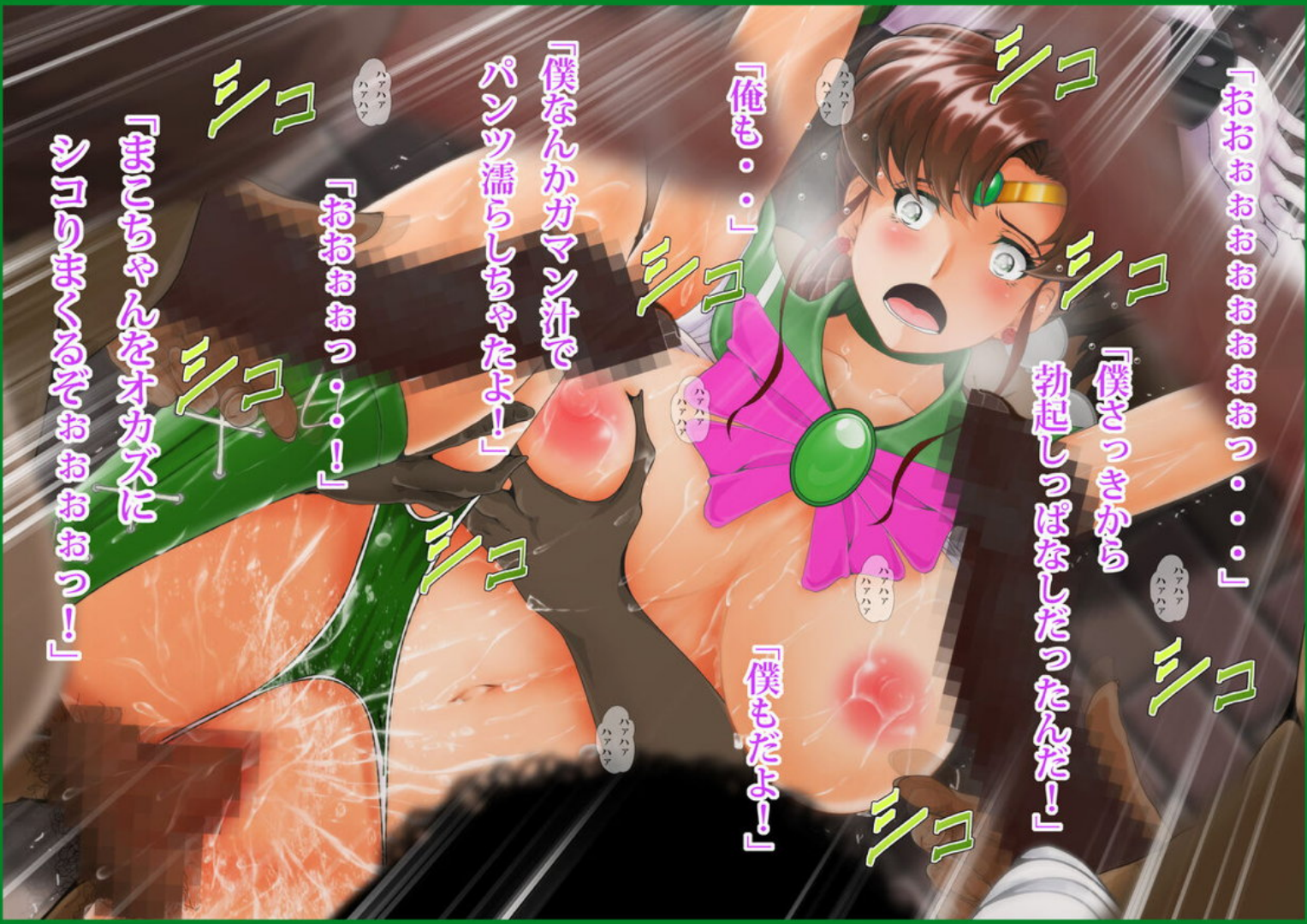
「おおおっ……！」

シコ

シコ

「まこちゃんをオカズに

「ー」のまぐろをおおおっ



「よかったな！」

「まごどー」

シコ

シコ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

シコ

シコ

ハアハア  
ハアハア

「ひゅっっ・・・」

「みんながお前をずりネタに  
センズリこいてくれてるぞ！」

「ゆるるるー」

シコ

シコ

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「見たこともない数のチ○ポが  
まごどーに向けられているー！」

「たくさんの精液を

いただけそうだなー！」

シコ

ハアハア  
ハアハア

シコ

「ありったけの精液  
射精だしてもらえっっ！」

「ああ・・・僕もそろそろ・・・」

「イキそうだ・・・!」

「!?!」

「<sup>だ</sup>射精すぞ・・・まこと!」

「このまま<sup>だ</sup>射精すぞ!」

「いいな<sup>だ</sup>射精すぞっ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア



「みんな見てる前で  
膣内射精だっ！」

「や・・・やめろっっ！」

「それだけは・・・」

「膣内なかで射精だしたらしょうちしないよ！」

「負け犬のお前が・・・  
言える立場か！」

ハアハア  
ハアハア

「だ・・射精すな！」

「うおおおおおおおっつ！」

「だめだ・・！」

「射精すぞっ！」

ハアハア  
ハアハア

「射精すぞっ！」

「なか腔内はやめろっ！」

「射精すぞっつ！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「射精すぞおおおおおっ！」

ハアハア  
ハアハア

ズツ  
ズツ



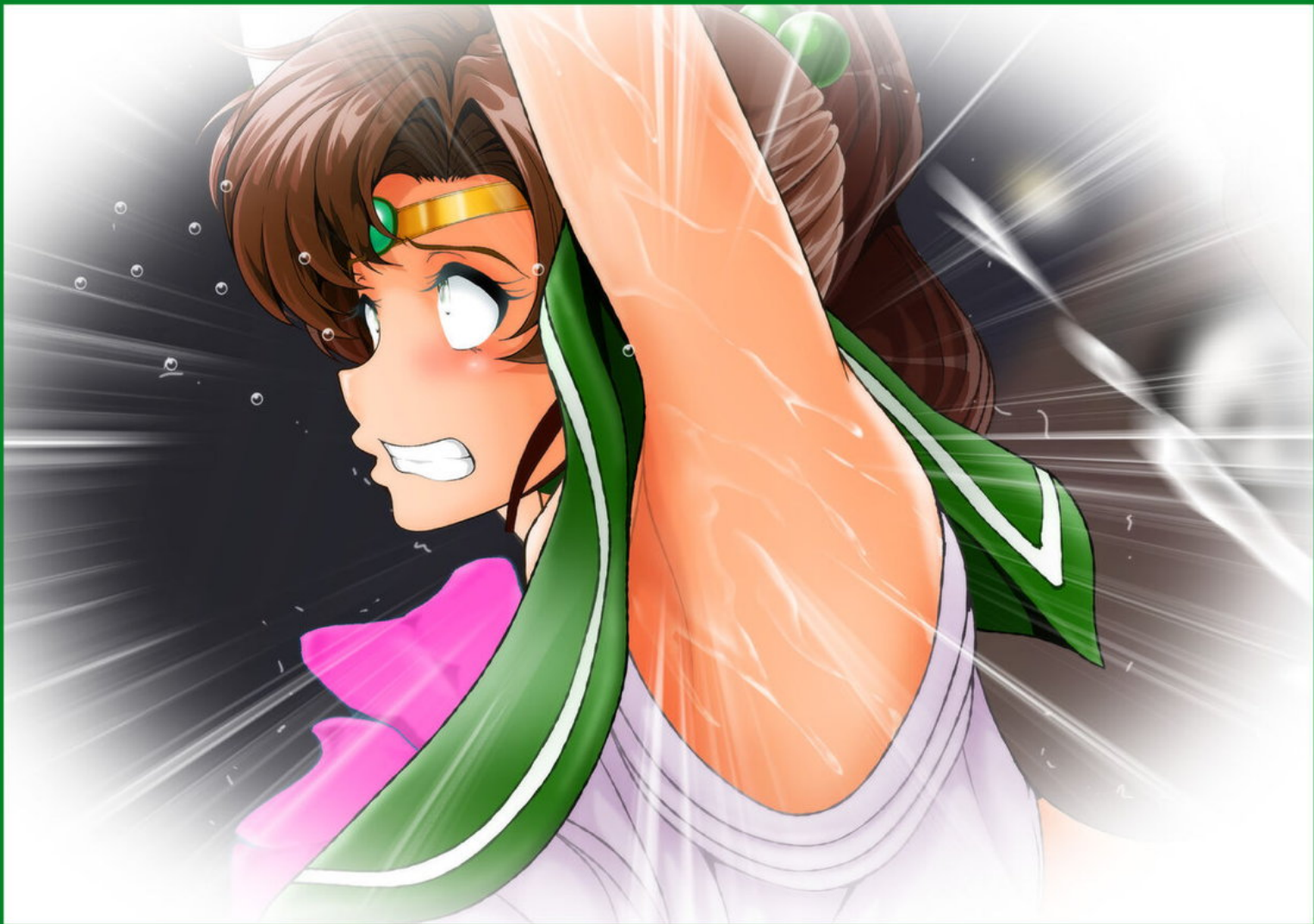
「セーラー戦士に膣内射精だあああああつ！」  
なかだし

ドゥン  
ドゥン  
ドゥン

「oooooooooooooooooooo」







「おおおおおおお……」

「ぼ……僕ももう限界つつつ！」

「イクツッ！」

「イクツッ！」

「イクツッ！」

「まごちゃんの身体に射精だしていい！？」

「イクツッ……！」

「ああああああ……」

「イクウウウウウウウウウウツツ！」

「お……俺もイキそうだ……」

イクツッ

イクツッ

「お・・・俺もイクツツ！」

「僕も！」

「俺は顔に射精すぞ！」<sup>だ</sup>

「僕もイクツツ！」

「俺も・・・！」

「僕はオッパイに！」

「僕はワキに射精すぞおおっ！」<sup>だ</sup>

「うおおおおおおおおおおおおおおっ！」

ドッポ  
ンツツ

ドッポ  
ンツツ

イク  
ツツ

イク  
ツツ

イク  
ツツ

イク  
ツツ

イク  
ツツ

イク  
ツツ

「セーラー戦士にぶっかけるおとおおお。」

「おおっっっ。」

ドッ  
ドッ  
ドッ

ドッ  
ドッ  
ドッ

「さーっ。」

「さーっっ。」

「さーっっ。」

ドッ  
ドッ  
ドッ

「おおおっっっ！」

ドッ  
ドッ  
ドッ

「おおおおお。」

ドッ  
ドッ  
ドッ

「らやあああああああああっっ。」

「おおっっっ。」

ドッ  
ドッ  
ドッ

ドッ  
ドッ  
ドッ

「おおおおおおおおおおおお。」



ハアハア  
ハアハア

「ああ……射精た……！」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ビクン

ビクン

びくびく

ハアハア  
ハアハア

びくびく

びく

ビクン

びくびく

「まことの膣なか内に

たっぷり射精だしてやったぜ！」

「あ……ああ……」

「ご……ごめん……」

「おおおお……」

「みんなも射精<sup>だ</sup>しちゃったの……!」



「S...ちやうり...こんなの...」

「んんんんー」

「まごちゃん的身體  
精液まみれだ！」

「いやっついやああああああああつ...」

「んんんんー」

「これぞヒロピン最高の  
パッドエンドー」

「んんんんん...」





「あ……ああ……」

「あ……」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「やっと終わった……!?!」

ズ

「終わり……!?!」

ハアハア  
ハアハア

「勘違いするなよ!

まことー!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ズ



「これで終わりでじゃならぞー!」

「見てみる!」

みんなのチ○ポ!

「まだピンピンだ!」

「なあに時間はたっぷりある!」

「みんなに可愛がってもらいな!」

ピン

ピン

ピン

ピン

ピン

ピン

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「ああ……っ」

「今度は僕達が  
可愛がつてあげるよ！」

「や……やめろ……」

「ほら僕のチ○ポ  
まだこんなに元気！」

「これ以上……」

「僕がまこちゃんを  
気持ちよくしてあげる！」

「俺がつ！」

「それじゃ……僕から！」

「いや俺が先だ！」

「僕も……！」

「ほらまごちゃん!」

「もっと強クシゴスド!」

ハアハア  
ハアハア

「あああああイクツツ!」

「イクツ!」

ハアハア  
ハアハア

「あああああ...」

「イクウウウウウツツ!」

ハアハア  
ハアハア

ハアハア  
ハアハア

「ほら啜えて!」

「今度は僕のを!」

ハアハア  
ハアハア

「いやあああああつっつ...」

ハアハア  
ハアハア

「しゃぶって...」  
「気持ちいいよ!」

「まごちゃんの手入れ!」

ハアハア  
ハアハア

「あああああ...」

「あああああ・・・」

これがセーラー戦士のマ○コー!

「セーラージュピターとの

セックスツツ!

「気持ちいいー!」

「おい早くかわれ!」

「次は俺だ!」

「いや僕にもやらせて!」

「穴が足りねえっつ!」

「俺は後ろの穴をいただくぜ!」

「セーラー戦士のケツマ○コだ!」

「セーラージュピターを

サンドイッチファ○クだっ!」

「うおおおおおおおおおおおおつ!」

終わることのないオフパコが。。。。

いま始まる。。。。





END